

洞爺湖有珠火山マイスターと減災文化の正四面体

畑吉晃、武川正人、加賀谷にれ、中谷麻美、大楽泰生（洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会事務局）、横山光（洞爺湖有珠山ジオパーク教育・普及委員長 北翔大学准教授）、洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク

洞爺湖有珠火山マイスター制度

北海道の南西に位置する有珠山は、近年、20～30年おきに噴火をしている活火山である。有珠山周辺の伊達市・豊浦町・社警町・洞爺湖町の1市3町では、次の噴火に備え地域が火山と共生するために、火山の特性を正しく理解し、災害を軽減する知恵や噴火の記憶を伝承していく住民に「洞爺湖有珠火山マイスター」（以下、火山マイスターと表記）という「地域限定の称号」を与え、地域減災のリーダーとしての認識を持ってもらい、地域減災力の向上を図るとともに、平時においては貴重な地域資源である洞爺湖有珠山地域の魅力発信にも活かしている。

【認定方法】

火山マイスターには、認定後、地域での実践活動が期待される。そのため、1年に1度実施される認定審査は、有珠山周辺の1市3町に居住している人のみ受験可能である。また、筆記試験はなくフィールド審査に重点を置く。

【審査手順】

- ① 受験者は有珠山との共生についての理想や考えに関するレポートを提出。（レポート審査）
- ② 噴火災害遺構などの野外フィールドで、模擬防災学習会の講師役を務める。正確な知識とコミュニケーション能力が審査される。（フィールド審査）
- ③ 面接では、地域に貢献しようとする熱意、知識や技術を高めようとする向上心、認定後の活動ビジョン等が審査される。（面接審査）

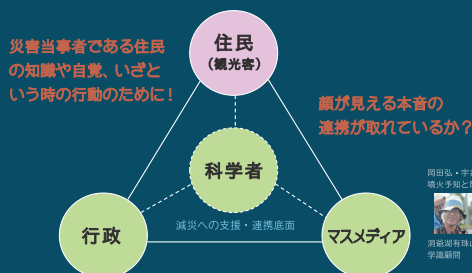
制度開始から10年が経過し、今年度認定の5名を加え、男性35名、女性13名の合計48名が認定されている。



減災文化の正四面体

岡田・宇井（1997）では、減災を実現するためには、災害当事者である住民（または災害弱者の観光客）、防災施策の行動力を持つ行政、自然の理解者である科学者、啓発と情報を受け持つマスメディアの協働が重要である事を右図と共に示した。

「災害を減らす」という同じ目的のために、対等の立場で協力し共に働き、仲間になり、顔の見える関係をつくる事が重要である。この正四面体のどの辺の連携も大事で、部分的な連携だけでなく、全体の機能を常に考えておくことが減災達成の基礎である。

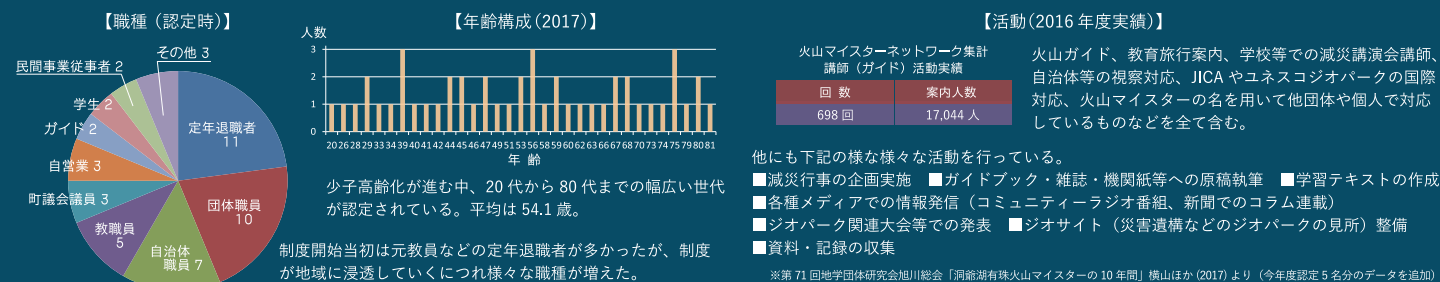


「災害対策とは、単発的な反射対応、つまり災害発生一行政判断→住民規制 だけでは足りない。安全文化が地域を守る、災害をどう乗り切るかは、今何をなすかに始まる。」

※米国地質調査所ナサン・ウッド博士による日本講演資料（2009）より

地域の減災力を向上させるには、地域に減災文化が根付くことであり、そのために絶やさず続ける「人づくりの仕組み」が火山マイスター制度である。

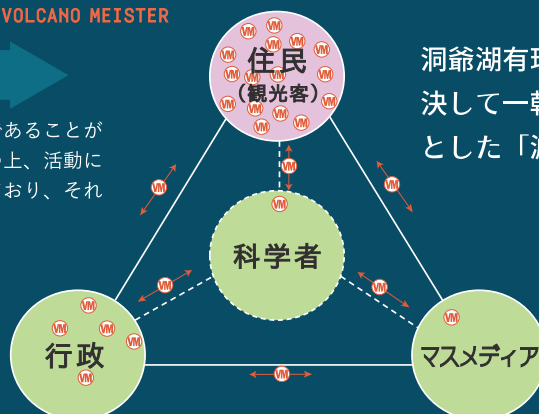
洞爺湖有珠火山マイスターのデータ



洞爺湖有珠火山マイスター制度の本質



火山マイスターの構成は職業、年齢ともに多様であることがわかった。また近年は女性の進出も顕著だ。その上、活動についても自らが主体となって様々な活動を行っており、それはまさに正四面体が機能する事につながる。



洞爺湖有珠火山マイスター制度の本質とは、決して一朝一夕では実現できない住民を主体とした「減災文化の実現」そのものである。